

- ◆ 名古屋学院大学は、教育環境の充実等を図る観点から、平成19年にキャンパスの一部を名古屋市に移転し、学部の新設・施設の充実等を図ってきた。更に同大学は、グローバル社会への対応(国際ゾーンの整備)及び地域連携の充実を図るため、二つの学舎(白鳥・日比野)の中間に位置する国有財産の取得を東海財務局へ強く要望。
- ◆ 当局は、同大学の取得要望を受け、宿舎削減計画により廃止された当該国有財産を「校舎等敷地」として、「第108回国有財産東海地方審議会」(27年5月20日)に付議したうえで、随意契約により時価売払(28年1月)。
- ◆ 同大学は、COC事業(Center of Community: 地(知)の拠点整備事業)として採択されているほか、名古屋市と協定締結(19年10月)し、以前より全学あげての地元商店街活性化などに参画しており、当該国有財産売却により、当局は同大学の地域振興の取組や同地域の活性化に寄与。

1. 成果事例の概要等

◆ 国有財産の概要

- 当該国有財産は、宿舎削減計画により廃止された財産であり、周辺に名古屋国際会議場があるほか、商業施設や事業所が立ち並ぶ地域に所在している。

【参考】

所在地:名古屋市熱田区大宝二丁目
(旧合同宿舎白鳥住宅)
区分・数量:土地 9,505.85㎡
沿革:平成26年8月引受
都市計画等:市街化区域 準工業地域ほか
(建ぺい率60%、容積率200%ほか)
契約年月日:28年1月8日
契約内容:時価売払
竣工予定:31年1月

◆ 名古屋学院大学からの取得要望

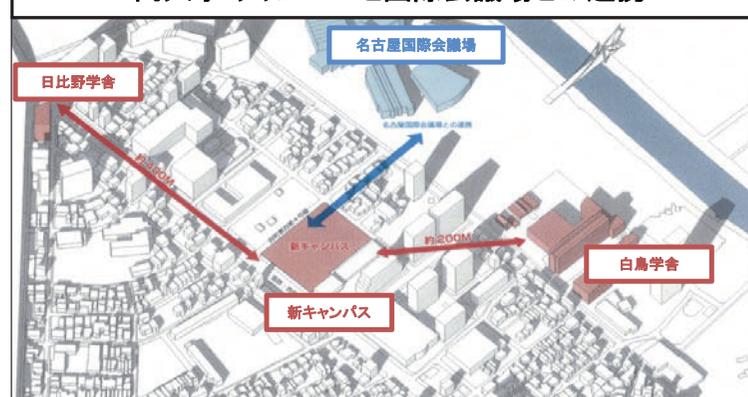
- 名古屋学院大学は、人材育成や社会貢献などを達成するため、「中長期(10か年)計画」を策定し、逐次教育環境の充実を図る取組を進めてきた。
- 当該国有財産は、二つの学舎(白鳥・日比野)の中間に位置し、名古屋国際会議場、地元商店街にも近接する好立地条件。同大学は、当該国有財産を外国語学部・国際文化学部を中心とする学内の国際ゾーンとして整備し、更に地域連携の拠点として活用したいとして、東海財務局に強い取得要望(26年11月)。

【整備概要】①校舎:SRC-4F建 延10,000㎡
・外国語・国際文化学部の教室、研究室棟
・留学生寄宿舍、地域連携センター
②屋外運動場

2. これまでの取組の成果等

- 当局は、同大学の取得要望を受け、当該国有財産を「校舎等敷地」として、「第108回国有財産東海地方審議会」(27年5月20日)に付議したうえで、**随意契約により時価売払(28年1月)**。
- 同大学は、当該国有財産を取得後、校舎等を新設、教室、研究室、留学生寄宿舍、地域連携センター及び運動場敷地として利用することとしているほか、以下のような地域連携・地域振興の取組を進めることとしており、**当該国有財産を売却することで同地域の活性化に当局が寄与**。
 - ①国際交流拠点
同大学は、売却地に「国際文化学部」を新設、既存の外国語学部と合わせて国際系学部に関連した施設を整備し、国際ゾーンを作ることとしているほか、名古屋国際会議場と連携した国際交流拠点としての貢献を視野に入れている(ESDユネスコ世界会議では公式ガイドマップを作成)。
 - ②地域連携・地域振興
同大学は、キャンパスが所在する名古屋市及び瀬戸市と連携して【「地域の質」を高める「地域連携・「知」識還元型まち育て事業】に取り組んでおり、当局は、売却地に当該施設が整備されることにより、同大学が地域コミュニティの中核的存在として、更なる地域の活性化を図っていくことを期待。

同大学キャンパスと国際会議場との連携



- 同大学の地域連携の取組
 - ①日比野商店街の活性化
日比野学舎に「カフェ&ベーカリーマイルポスト」を運営。地元振興組合と連携し活性化に取り組む。
 - ②みつばちプロジェクト
校舎屋上でみつばちを飼育。蜂蜜・オリジナル商品を地元商店街で販売。
 - ③シティーカレッジ授業
近隣住民への生涯学習講座を開催。